

1. 概要

ドゥアルデ政権が発足して二ヶ月が経つが、政治・経済・社会情勢は悪化する一方である。IMFからの追加支援を必要としている亜政府は、政府内、政党間及び政府・州間にて、IMFが要求している破産法の修正、経済攪乱法の破棄、連邦政府と州政府間で合意した財政赤字削減策等に関し調整を進めたが、具体的な結果を出せなかった。

外交面では、ドゥアルデ大統領が、開発資金国際会議に出席するためメキシコを訪問し、ケーラーIMF専務理事、フォックス墨大統領等との会談で亜の現状及び支援の必要性を説明するものの、具体的な追加支援の回答は得られなかった。

2. 内政

(1) 第120回通常国会

ドゥアルデ大統領は1日、通常国会の開会にあたり施政方針演説を行った。同演説において、州政府との連邦合意及びあらゆるセクターとの国民合意のための交渉が実現したこと、医薬品の不足に対し衛生非常事態を宣言するなど様々な社会問題にも随時対応してきたこと、今後の経済成長のためにも兌換制を破棄し、ペソ化を採用するなどこれまでの実績を述べた。

(2) 司法

(イ) 検察当局は11日、バジェステロ連邦判事に、デ・ラ・ルア元大統領、カバロ元経済大臣、元経済スタッフ及び数名の銀行の頭取を、2001年7月の公的債務の大型借換えに絡む職務上の不適当な遂行、公金横領及び非合法犯罪の容疑で調査するよう要請した。

(ロ) バジェステロ連邦判事は21日、カバロ元経済大臣を犯罪の教唆、職務上の不適当な遂行及び裁判所の命令を無視するようとの各銀行への省令発令の容疑で起訴した。

(3) 社会騒擾

(イ) ストライキ

教職員労組は、4日、14日に職務の待遇改善を求めて全国規模のストライキを実施した他、乳産業労組ら数多くの労組はストライキを実施した。

(ロ) 略奪

27日より、ブエノス・アイレス州を中心に全国の数州において、散発的にスーパー等への略奪が行われた。一連の事件に対して治安当局は即座に対応し略奪行為の排除を行ったことで、被害は最小限に抑えられた。治安当局との衝突により、数名の負傷者が出たものの、死者の報告はなされていない。

3. 外交

(1) 開発資金国際会議

ドゥアルデ大統領は20日から22日にかけて、国際会議に出席のため墨のモントレイを訪問した。20日にフォックス墨大統領、21日にクレティエン加首相、アスナール西首相と会談を行い、各国首脳から亜に対する政治的支援を得た。右に加え、イグレシアス IDB 総裁、ブラウン UNDP 代表、ケーラー IMF 専務理事、ウォルフレンソン世銀総裁、アナン国連事務総長と会談を行った。

(2) 米国

グロスマン米国国務次官補は6日訪亜し、ドゥアルデ大統領と会談した。7日には在亜米国大使館において記者会見を行い、米国は、米国の友人かつ同盟国である亜の現状を憂慮している、両国は湾岸戦争時の派兵等、多くの対外政策で協調姿勢を採っており、加えて昨年米国テロ事件後の米州相互援助条約での亜のイニシアチブに感謝している、将来的には再度亜国民を査証免除することも可能であると発言した。

(3) 英国

Hoop 英国国防相は13日訪亜し、ハウナレナ国防大臣、ルカウフ外務大臣と会談した。亜外務省でのスピーチでは、亜への政治的支持を表明し、内外の投資家を平等に取り扱うよう要請した。さらに、今年のマルビーナス紛争20周年記念を和解の精神と共に迎えなければならない、マルビーナスに亜の戦没者の記念碑が建立されることを嬉しく思うと述べた。

(4) キューバ

ドゥアルデ大統領は19日、国連人権委員会でのキューバ非難決議に賛成票を投じることを明らかにした。

(5) パレスチナ紛争

亜政府は30日、コミュニケを発売し、国連安保理決議第1402号を支持することを表明し、対象地域において対話と地域の平和に向けて具体的に進展するよう要請した。

(6) 要人往来

(イ) 来訪

6、7日 グロスマン米国国務次官補

8日 フィッシャー独外相

13日 ジェフリー・フーン英国国防相

18日 ミロ・イスラエル地域協力相

20日 バチレット・チリ国防相

(ロ) 往訪

11日 レメス・レニコフ経済大臣、第43回 IDB 年次総会に出席のため、伯へ

18日 アタナソフ労働大臣、ILO の会議に出席のため、スイスへ

20-22日 ドゥアルデ大統領、レメス・レニコフ経済大臣、ルカウフ外務大臣、開発

資金国際会議に出席のため、墨へ

25、26日 ブレヘル中銀総裁、アナ・クルーガーIMF 副専務理事らと会談のため、米
国へ

28日ー デ・メンディグレン生産大臣、貿易促進の交渉のため、中国へ

(7) 今後の主要日程

4月 2-8日 デ・メンディグレン生産大臣訪中

8-10日 アマデオ大統領府報道官府訪米

11、12日 イルダ・ゴンサレス・デ・ドゥアルデ大統領夫人訪米

15-17日 上院下院議員団訪米

18-20日 レメス・レニコフ経済大臣訪米